

# ほんのとき



ひらかたしりつ ちゅうおうとしょかん

こどものフロアだより

2026  
3がつ

こんげつのとくしゅう

## おにいちゃんおねえちゃん

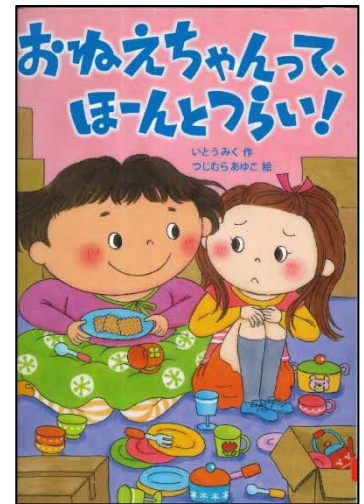


## おねえちゃんって、ほんどつらい!

いとう みく/作 つじむら あゆこ/絵

岩崎書店 **やさしい一ト**

おかあさんが再婚して、あたしに妹ができました。まだ3才なのに、1年生のあたしより大きくて、あたしのまねをよくします。ある日、あたしは妹がいやになって家出をしました。けれども、気がついたら妹といっしょにいました。やっぱりおねえちゃんって、大変です。



小学校中学年から  
中学生に!

## 君の火がゆらめいている

落合 由佳/作 jyari/絵

講談社 **YA F-オチ**

自閉症の双子の姉をもつ小学六年生の葉澄は、家族を支えなくては、という責任感と逃げ出したい気持ちの間で揺れ動いていました。そんな中、障害がある子のきょうだいが集まった「きょうだい会」で同世代の恵太と出会い、心の揺れを見つめ始めます。



## 双子のピアノ

倉本 由布/著 こりゆ/絵

アリス館 **F-クラ**

小学五年生の水弦は、ある日、楽器博物館のデュオ・ピアノから妙な“声”を聴きます。これまで、水弦は天才ピアニストの兄・詩弦との実力差に目を背けていましたが、デュオ・ピアノの秘密を追ううちに、自分の気持ちに気づき始めていきます。



ひらかたしりつちゅうおうとしょかん

枚方市立中央図書館

でんわ

電話:050-7105-8121 ファクス:072-851-0962

〒573-1159 枚方市車塚2丁目1-1

よ 読みたくなったらこちらから⇒

2階こどものフロア 開館時間: 午前9時30分~午後7時(土日祝は午後5時)



スマホ用

# ぼくのなまえは、ミルクなの

服部 千春／作 たるいし まこ／絵

岩崎書店 やさしい-ハツ

ミルクは、ハルちゃんのかいネコです。おうちに、あかちゃんネコがもらわれてきました。ミルクは <sup>おとうと</sup> 弟 <sup>たの</sup> ができるのが楽しみでしたが、ハルちゃんはあかちゃんねこばかり <sup>かわい</sup> がります。ミルクは <sup>いえで</sup> かなしいきもちになり、家出してしまいます。



# はばたけ! バンのおにいちゃん

とうごう なりさ／作 上田 恵介／監修

出版ワークス えほん-トウ

バンは、<sup>いけ</sup> 池や <sup>すいでん</sup> 水田などで <sup>みずどり</sup> ぐらす水鳥です。一年に2、3回 <sup>いちねん</sup> たまご <sup>かい</sup> を <sup>うみそ</sup> だてますが、<sup>さき</sup> 先に <sup>う</sup> 生まれた <sup>ようちよう</sup> 幼鳥が <sup>つぎ</sup> 次に <sup>う</sup> 生まれるヒナたちを <sup>おとう</sup> お父さん <sup>かあ</sup> お母さんといっしょに <sup>せわ</sup> 世話 <sup>みずべ</sup> します。水辺には <sup>きけん</sup> 危険 <sup>いっぱい</sup> が <sup>いっぱい</sup> います。ちゃんと <sup>いもうと</sup> 妹 <sup>おとうと</sup> や <sup>おとうと</sup> 弟 <sup>まも</sup> たちを <sup>まも</sup> 守ってあげられるでしょうか？

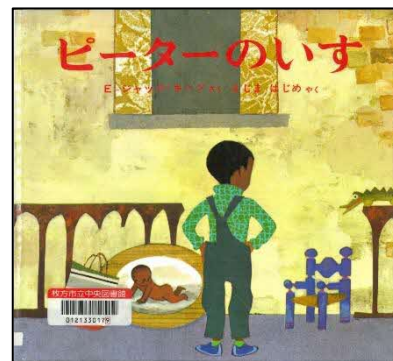
# ピーターのいす

エズラ=ジャック・キーツ／さく

偕成社 えほん-キツ

きじま はじめ／やく

ピーターに、<sup>いもうと</sup> 弟 <sup>が</sup> できました。ピーターの <sup>ゆりかご</sup> ぐりかごも、あかちゃん <sup>ベツド</sup> ベツドも、みんな <sup>いもうと</sup> 弟 <sup>の</sup> もの <sup>に</sup> なって <sup>い</sup> きます。のこったのは、<sup>ちいさい</sup> 小さい <sup>とき</sup> ときに <sup>つかって</sup> つかっていた <sup>いす</sup> いす <sup>だけ</sup> だけ。ピーターは <sup>いす</sup> いす <sup>を</sup> を <sup>もちだ</sup> だして、<sup>いえ</sup> いえ <sup>で</sup> しよう <sup>と</sup> と <sup>かんが</sup> かんが <sup>え</sup> えます。



# まねしんぼう

みやにし たつや／さく・え

岩崎書店 えほん-ミヤ

ぼくの <sup>いもうと</sup> 弟 <sup>は</sup>、いつも <sup>ぼく</sup> ぼくの <sup>まね</sup> まね <sup>を</sup> を <sup>し</sup> します。ぼくが <sup>ジャンプ</sup> ジャンプ <sup>って</sup> って <sup>とびあ</sup> とびあ <sup>が</sup> が <sup>ると</sup> と、<sup>いもうと</sup> 弟 <sup>も</sup> も <sup>ジャンプ</sup> ジャンプ <sup>を</sup> を <sup>する</sup> けれど、<sup>ぜんぜん</sup> ぜんぜん <sup>と</sup> と <sup>びあ</sup> とびあ <sup>が</sup> が <sup>れて</sup> いません。ぼくが <sup>おさんぽ</sup> おさんぽ <sup>に</sup> に <sup>い</sup> いて <sup>いたら</sup> いたら、<sup>いもうと</sup> 弟 <sup>も</sup> も <sup>おさんぽ</sup> おさんぽ <sup>に</sup> に <sup>い</sup> いて <sup>いって</sup> いて、<sup>ぼく</sup> ぼくの <sup>て</sup> て <sup>を</sup> を <sup>ぎゅ</sup> ぎゅ <sup>と</sup> と <sup>に</sup> に <sup>ぎ</sup> り <sup>ま</sup> します。  
ほほえましい <sup>きょうだい</sup> 兄弟 <sup>の</sup> の <sup>お</sup> お <sup>は</sup> な <sup>し</sup> し <sup>で</sup> ず。